



10 付近図

小学校区 <b>遺芳丘</b> 人口 <b>10,182</b> 人 事業所数 <b>2</b> 事業所 利用定員 <b>20</b> 人	意見
凡例 ○ … 事業所 × … 同種の事業所 △ … 一次避難先 □ … 二次避難先	
付近図掲載せず	

11 平面図

※平面図のデータを貼付   別紙参照	意見 ・障がいがある児童及び医療的ケア児等を受け入れるに当たり、バリアフリー対応をどのようにしていくか。
-----------------------------	---------------------------------------------------------

12 事業計画

【目的】 子ども達一人ひとりの特性は多種多様で本人の持つ困り感も様々であり、また対人関係が苦手、刺激に弱い、集団の中でストレスを感じてしまうタイプの子どもには、集団療育はかえって苦手意識を高めてしまい、療育自体を受けるチャンスを失ってしまうこともあります。 個別療育は、個々の現状や成長に合わせてプログラムを組める利点があり、正確な本人の理解に基づき、生きる力を身に付けるためのトレーニングを丁寧に行うことにより、その先にある集団療育や社会参加の見通しをもつことができるよう取り組んでいくことを目的としています。	意見 別紙記載
1. 利用定員 10名 2. 営業日 月曜日から土曜日 3. 営業時間 平日 10:00～19:00 学校休業日 8:00～17:00 4. サービス提供時間 平日 14:00～15:00 15:15～16:15 16:30～17:30 (月・水・金) 個別支援 14:00～17:30 (火・木) 小集団支援 学校休業日 9:00～15:00 個別支援・小集団支援 5. お休み 日曜日・お盆(8/13～8/15・年末年始(12/30～1/3)) 6. 送迎 要相談	

13 利用者処遇

【サービス内容】 ・SST、発達検査(コミュニケーションを軸に遊びや対話を通して社会性を身に付ける) ・学習支援(学力や能力・特性に合わせた学習の場の提供:教員免許のスタッフ配置) ・芸術(リトミック・フラワーアレンジメント・絵画・造形など) ・ホースセラピー(精神機能と運動機能の向上) ・パソコン教室・英会話教室(自立した生活に必要なスキルを身に付けることで学ぶ楽しさが体験できる) 【保護者への支援】 子育ての悩みに関する相談を行う ※保護者が子どもと向き合うゆとりと自信を回復することで、子どもの発達に相応しい影響を及ぼすことに期待 【関係機関との連携】 ・相談支援事業所 ・学校 医療機関(宮地クリニック)や専門機関(子ども発達支援センター等)との連携 ・保育所や児童発達支援事業所 ・他の放課後等デイサービス ・放課後児童クラブ など	意見 別紙記載
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------

14 防災計画

【避難場所】 遺芳丘小学校 【避難方法】 児童指導員が徒歩で安全確認しながら誘導する ・一次避難先(遺芳丘小学校)…徒歩15分 ・二次避難先(松永小学校)…徒歩20分 【消防訓練】 2回/年(毎年8月と12月を予定) ・防災マニュアルの作成 ・避難経路の周知	意見 ・一次避難先の遺芳丘小学校までの道中に本郷川がある。安全確認を十分に行うこと。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------

15 一日の流れ

10 時 00 分 ~ 11 時 00 分 開所	意見
10 時 00 分 ~ 12 時 00 分 メール確認・ケース会議・活動準備・買い出し等	
12 時 00 分 ~ 13 時 00 分 休憩	
13 時 00 分 ~ 14 時 00 分 ケース入力・活動準備	
14 時 00 分 ~ 17 時 30 分 個別療育・小集団療育・学習支援	
17 時 30 分 ~ 18 時 00 分 送迎(要相談)	
18 時 00 分 ~ 19 時 00 分 メール入力・今日の振り返り・ミーティング	

## 2 事業実施に係る動機 意見

- ①松永エリアの既存事業所はどこか。既存事業所の定員を20人にしない理由は何か。広さの問題か。
- ②個別療育の対象児とするための判断基準はあるか。

## 12 事業計画 意見

- ③各療育プログラムについて、それぞれいつ誰がどこでどのような対象児童に対しどのような目標でどのような内容で行うか。具体例を交えて記すこと。
- ④送迎は要相談となっているが、規程は有るか。

## 13 利用者処遇 意見

- ④各療育プログラムを担える専門的スキルを持つスタッフは居るか。
- ⑤月・水・金の個別支援は、指導訓練室2、静養室1を使い1時間に3名までの受け入れが可能と見受けられるが、各室の療育環境はどのようになっているか。
- ⑥ホースセラピーを行う時、スタッフはどのように配置するか。
- ⑦感覚統合の教材・教具はどのように設置するか。吊るす教具があれば天井の高さは適切か。
- ⑧音楽療法はどのようなもので専門性はあるか。
- ⑨各療育プログラムへの参加が難しい児童、障がいの重い児童に対しての療育をどうするか。
- ⑩保護者支援の具体的な計画(研修計画や家庭訪問等)を記すこと。





2

①既存事業所の「かがやき松永」は5丁目にあります。定員20名にすると、指導訓練室での安全確保及びスタッフの駐車場や利用者の下駄箱、ロッカー、スペースの問題といったハード面での対応が困難であり、報酬面も厳しいことから、定員20名にはできないと判断しました。

②判断基準は明確には設けていませんが、集団がなじめない(不登校の児童も)、対人関係が苦手、保護者のニーズ等を考慮して受け入れる予定です。

12

③月曜日はパソコン教室ですが、利用者、保護者の聞き取りを行い、プログラミングなのか、入力(Excel・wordなど)業務を求めているのかをまず把握して利用者合った目標設定をする予定です。金曜日は、英会話ですが、利用者が何を求めているのかを把握するところからスタートします。他の療育プログラムについても同様です。具体的な内容については、これからになると思います。

④送迎については、規程は特にありません。基本的には家族送迎をお願いしています。家族構成によって、ひとり親や共働きの家族など、送迎が困難である場合に限って送迎を行う予定でいます。

13

④パソコン教室・英会話教室では、外部講師の先生をお願いしています。かがやきスタッフについては、リハビリスタッフ(OT・PT配置)・特別支援に関わっていた先生・もと学校の先生(教員免許)・保育士・児童指導員など、多職種による協働チームの構成となっており、専門性が活かせる体制にしています。

⑤月・水・金の個別支援は1対1の対応ではなく、指導訓練室-2に個別学習のスペースを十分確保し、利用者3~4人を受け入れ、1人のスタッフを配置予定。指導訓練室-1は、他の部屋より広く、利用者5名程度の受け入れを考えており、工作・創作活動などのスペースとして考えています。

⑥ホースセラピーについては、利用者5名程度でスタッフを3名配置しています。馬主さんより、馬の特性、性質などの説明を受け、安全に乗馬できるよう体制を整えています。

⑦トランポリン・平均台・マット・バランスボール等を使い、作業療法士の指導により、さまざまな感覚器官に働きかけを行うようにしていきます。吊るす教具を設置する予定はありません。

⑧スタッフの中に、ミュージックケアの研修を修了したスタッフを配置し、キーボードを使って、歌やダンスを取り入れる予定です。

⑨療育プログラムに参加しない利用者については、何がしたいかを把握し、重度の障害のある利用者についても、できる活動を考えていく予定です。考え方としては、学校終了後(放課後)に利用する為、その日の気分であったり、自分のしたくない活動もあると思われる。利用者の思いや気持ちを大事にしていくことが重要だと考えます。

⑩コロナ禍の状況の中で家庭訪問が難しい場合もあります。4月から相談支援事業所を立ち上げ、かがやきを利用する利用者に対しては、相談員と連携しながら、家での困りごと、保護者の悩みを聞くなどしていきます。また家族会を実施し、母親同士の集まりが提供できればと思っています。内部研修にも力を入れていきます。特別支援教育に従事されている方を講師にお招きし、保護者支援の勉強会も実施予定です。